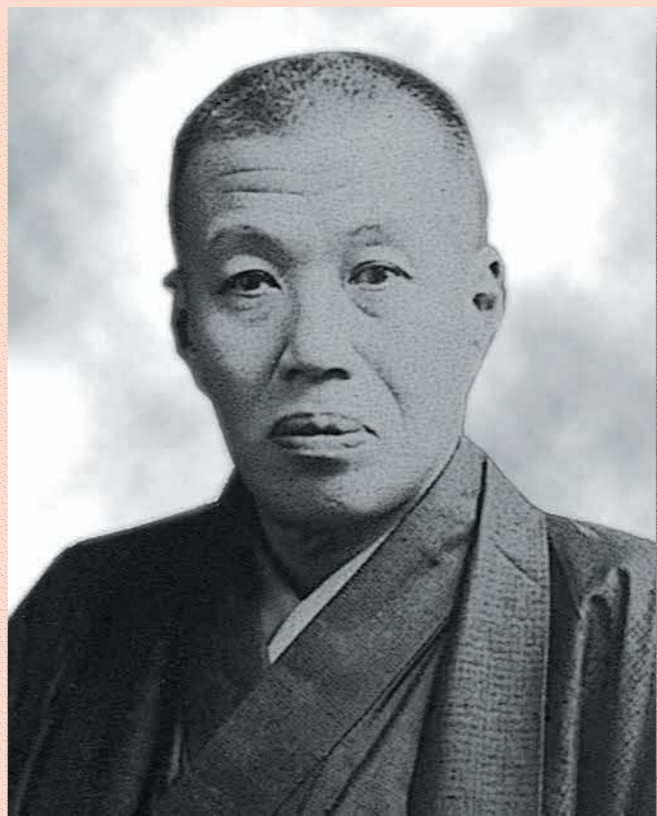


川柳

いのうえけんかぼう

井上剣花坊



萩市

(1870～1934)

井上剣花坊（本名、井上幸一）萩出身の川柳作家。上京して日本新聞社に入り編集長の古島一雄に見出され、そのすすめもあり川柳の革新を志す。時あたかも正岡子規らにより俳句・短歌が新時代を迎えようとしていた。彼は柳樽寺和尚剣花坊と号し、新川柳を提唱、明治・大正・昭和にかけ活躍した。門人に大衆作家の吉川英治もいる。晩年は王道主義的プロレタリア川柳を掲げた。

（和田 健）

【主な著作】

『新川柳六千句』（南北社、大正6年）

『川柳を作る人に』（南北社、大正8年）

『井上剣花坊句集』（叢文社、昭和10年）